# 固定運動遊具による幼児の遊びの発達についての実験的研究（2）

岡本卓夫

## 三、ジャングルジム

### 四才児

ひとりの場合、男・女児ともジムにいくや、一段ずつ注意深くのぼり、それぞれ能力の限界（男児の半数は最上段まで、その他の男児および女児は、それの一、二段下）まで登ると、ちょっと下を眺めて休み、その後は、その近辺を二、三足動いては休むといった行動をくりかえし、その活動範囲はきわめて狭い。

二人、三人とグループの人数が増加しても、男・女いずれの組でも、彼らは自分勝手にひとり遊びのときのような行動をとり、連合遊び（associative play）に終始する。だが、人数の増加にともない、その活動は活発になる。

### 五才児

ひとりの場合、男・女児とも、四才児よりジムにのぼる速度ははやく、それぞれ能力の限界（多くの男児および少数の女児は最上段まで、その他は、それの一、二段下）まで登ると、下や遠方を眺めて休むことは四才児に同じ。その後、多くは中央部から下り、中段でくぐり回って遊び、また上側にでたり、その上縁を横進したりなどし、その活動範囲もまた広くなる。

二人、三人とグループの人数が増加しても、男・女いずれの組も、多くは、ひとりのときのような遊びをするが、人数の増加により彼らの活動は活発となり、いつも活動的な子ども二、三人が近づきあいながら行動し、「のいて」とか、「鬼ごっこせんか」などいって自分たちのやりたいことをしておる。第七、八表に示すごと

く、男児組に、ごくわずかの時間、「鬼ごっこ」をして遊んだのがみられた。だが、みんなで長時間は遊べない。

## 六才児

ひとりの場合、その様式はほとんど五才児に似ておるが、男児のほとんどおよび女児の半数は最上段に、その他の子どもは、それの一、二段下までのぼり、下や遠方を眺めてちょっと休み、その後、くぐり下りたり、くぐり上ったり、横進、懸垂、手ばなしなど、変化きわまりない遊びをし、その活動はきわめて活発となる。

第 6 表　ひとり遊びの種類と平均時間

| 遊びの種類＼年令・性 | 4才 男 | 4才 女 | 5才 男 | 5才 女 | 6才 男 | 6才 女 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 最上段にぶる | 10″ | 3″ | 12″ | 4″ | 18″ | 5″ |
| 横進 | | 6″ | 10″ | 11″ | 13″ | 23″ |
| 上・下進 | 8″ | 10″ | 6″ | 8″ | 4″ | 7″ |
| またいだりくぐる | 42″ | 35″ | 1′08″ | 1′04″ | 1′50″ | 1′47″ |
| その他 | 2′00″ | 2′06″ | 1′24″ | 1′33″ | 35″ | 38″ |

第 7 表　2人遊びの種類と平均時間

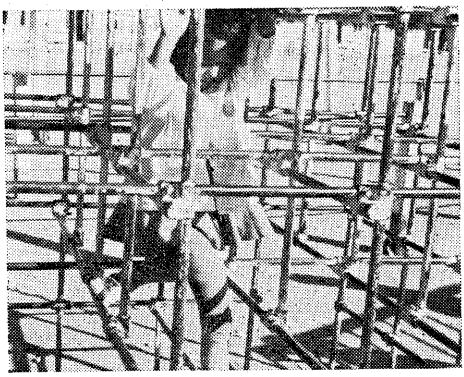
| 遊びの種類＼年令・性 | 4才 男 | 4才 女 | 4才 混 | 5才 男 | 5才 女 | 5才 混 | 6才 男 | 6才 女 | 6才 混 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 鬼ごっこ | | | | 12″ | | | 42″ | 36″ | 14″ |
| その他 | 3′00″ | 3′00″ | 3′00″ | 2′48″ | 3′00″ | 3′00″ | 2′18″ | 2′24″ | 2′46″ |

第 8 表　3人，5人遊びの種類と平均時間

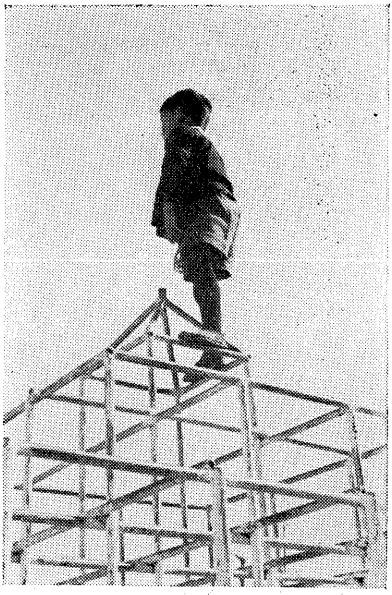
| 構成 | 遊びの種類＼年令・性 | 5才 男 | 5才 女 | 6才 男 | 6才 女 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3人 | 鬼ごっこ | 33″ | | 1′49″ | 39″ |
| | その他 | 2′27″ | 3′00″ | 1′11″ | 2′21″ |
| 5人 | 鬼ごっこ | 26″ | | 1′05″ | 35″ |
| | その他 | 2′34″ | 3′00″ | 1′55″ | 2′25″ |

二人、三人とグループの人数が増加してくると、男・女・混合いずれの組でも、第七、八表に示すごとき「鬼ごっこ」がめだってくる。多くの場合、活動的な子どもが先にジムに登り、リーダーとなって「鬼ごっこせんか」といって、じゃんけん じゃんけんとさけびながら、三〜五名の子どもとじゃんけんをし、遊びにうつる。一般に、彼らはいかに人数が増加しても、じゃんけんをして遊べるのは、おおむね五、六名までのグループであり、他の子どもは、自分勝手に遊んでいる。だが実際、ジャングルジムでは、簡単に動けないので、鬼ごっこのグループでも、鬼の周辺にいる子ども同志

第5図　またいだりくぐったり（5才女児）



第6図　最上段の手ばなし（6才男児）



がってみたり、バーを左・右にさすったりなどしている。女児は、男児のようにとびつこうとするよりは、バーによりかかったり、左・右にバーをさすったり、あるいはぶらさがって両脚を挙げ、バーをはさんだりなどする傾向がある。第九表にも示すごとく、一般にその遊び方は単純で少なく、実施回数もきわめて少ない。したがって、すぐに飽き、鉄棒からはなれて他の遊びにうつる。

二人組の場合、男・女・混合いずれの組でも、活動的で上手な子どもが先に自分のできる遊びをし、他の子どもは、それを模倣してみる。だが、できないときは、自分のできる遊びに変更するかあるいはそれを眺めている。一般に二人になると、互いに模倣し合ってその活動は活発となるが、まだこの年令では長続きしない。

三人組になると、男・女いずれの組も、活動的な子ども二人が先に場所をとるので、ひ弱いひとりはそばで見ている。そして二人のうち、誰かがバーを離れると、見ていた子どもがその場所へいき、遊びをはじめる。だが、再び先の子どもがバーにもどるとのけられてしまうといった具合に、多くは活動的な子ども二人がバーをでする場合が多く、それ故、離れている逃げ手はおもしろくなく、すぐにグループをはなれて自分勝手にジムを動き回って遊ぶ。そして、終には、すべての子どもが連合遊びになる。

## 四、低鉄棒

### 四才児

ひとりの場合、鉄棒にいくや、多くは両腕で鉄棒を肩巾より広くもち、男児は、ただちにとびつき、とびついた子どもの多くは前回りしておりる。とびつけない子どもは、両肘をかけ、それでぶらさ

占有するので、のけられた子どもは、すぐに他の遊びにうつってしまう。遊んでおる二人も、下手な子どもから順次鉄棒をはなれていき、それぞれ自分勝手に好きな遊びにうつる。

第 9 表　ひとり遊びの種類と平均出現回数

| 遊びの種類＼年令・性 | 4才 男 | 4才 女 | 5才 男 | 5才 女 | 6才 男 | 6才 女 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 腕立懸垂(とび上り) | 1.1 | 0.5 | 6.4 | 3.2 | 6.0 | 3.3 |
| 前回り下り | 0.9 | 0.1 | 2.6 | 2.2 | 4.2 | 2.7 |
| 腹かけ懸垂 | 0.2 | | 0.4 | 1.2 | 1.5 | 2.1 |
| 両脚かけ懸垂 | | | | 0.9 | 0.3 | 1.5 |
| 脚ぬき後回り | | | | | | 0.2 |
| 〃 前回り | | 0.3 | | 0.6 | | 0.5 |
| 両足かけ背面懸垂 | | | | | 0.2 | 0.1 |
| 逆懸垂 | | | | | | 0.2 |
| 外片脚かけ跳上り | 0.5 | | 1.3 | 2.1 | 1.4 | 2.7 |
| 内〃 〃 | | | | 0.8 | | 1.5 |
| 外片脚かけ前回り下り | | | | 0.1 | 0.2 | 0.1 |
| 〃 後回り下り | | | | | 0.5 | 2.0 |
| 内片脚かけ前回り下り | | | | | | 0.1 |
| 〃 後回り下り | | | | | | 1.1 |
| 腕立後方回転 | | | | 0.1 | | 0.2 |
| 腰かけバランス | | | | 0.3 | | 0.3 |
| 両脚かけ後回り下り | | | | | | 0.2 |
| 内両脚かけ | | 0.8 | | 1.7 | 0.3 | 0.5 |
| 足かけ腕立伏臥 | 0.1 | | | 0.2 | | 0.2 |
| 伏臥鉄棒まき | | | 0.4 | | 0.2 | |
| 仰向〃 | | 0.2 | | 0.8 | 0.4 | 0.7 |
| 正面両肘かけ | 1.6 | 1.1 | | | | |
| 背面〃 | 0.1 | 1.0 | 0.7 | 0.4 | 1.3 | 0.6 |
| 鉄棒くぐり | | | 0.2 | | 0.1 | |
| 長懸垂 | 0.1 | 0.4 | | | | |
| 両脚鉄棒はさみ | | 0.5 | | | | |
| 逆あがり | | | | | | 0.2 |

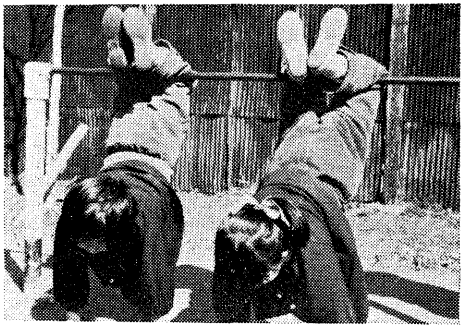
## 五才児

その握り方は四才児に同じ。ひとりの場合、鉄棒にいくや、男児の多くは、ただちにとびつき、あるいは前回り、あるいはとび下りなど、これらをくりかえして遊び、それがすむと、こんどは、脚をかけたり、くぐったりなどし、再びとびつくという具合に、それらをくりかえして遊ぶ傾向がある。女児の多くは、最初から片脚を、あるいは両脚をかけ、多くはぶらさがって遊ぼうとする傾向が強く、それらが一通り終ってから男児のごとくとびついて遊び、再び脚かけなどで遊ぶというふうに、遊びの流れは、男児と女児と逆の傾向がある。また、その遊び方は、第九表にも示すごとく、男児より女児が多彩で、しかも器用であり、活発である。

二人、三人とグループの人数が増加しても、その様式は、男・女・混合いずれの組も、やはり四才児に似ておる。男児は、遊びの途中鉄棒からはなれていくものもいるが、女児はほとんどなく、三人で遊んでも、互いにゆずり合って遊ぶ。

第7図　腕立懸垂（5才女児）

第8図　足かけ腕立伏臥（5才女児）



って、男児の場合、しばしば落ちて頭を打ったり、しりもちをついたり、あるいは他の子どもの頭に脚をぶっつけたりすることもある。

## 五、遊動橋

### 四　才　児

ひとりの場合、橋にいくや、男・女とも一方の端にあがり、鎖につかまって立ち、多くは両脚をそろえて脚だけでゆる。それゆえ、ゆれは小さく、ほとんどの子どもがかような方法で遊ぶ。

二人組になっても、男・女・混合いずれの組も、かような要領で二人が両端に分かれて向かい合ってゆるのみ。

三人組になると、男・女いずれの組も活動的な子どもが先に両端にあがり、残ったひとりの子どもが中央に横向きで腰かけ、三人でゆる。だが、この年令では、腰かけている子どもはゆられているといった感じが強い。

五人以上のグループにもなると、ほとんどゆっては遊べない。

### 五　才　児

ひとりの場合、その様式は四才児に似ておるが、彼らは、左右の脚をわずかに前後に開いてゆり、そのゆりも四才児よりは大きい。

### 六　才　児

ひとりの場合、その遊びの流れは、五才児にほとんど似ておる。だが、第九表にも示すごとく、男・女児とも、その遊び方や実施回数は五才児よりはるかに多く、その活動は、きわめて活発である。ことに女児は得意で、技術的にも相当高度な遊びをしておる。

二人、三人とグループの人数が増加しても、その様式は、男・女・混合いずれの組も、やや五才児に似ているが、しかし、鉄棒からはなれていく子どもはなく、女児組では、互いにゆずり合って、男児組では競争したりして遊び、ひとり遊びのときよりきわめて活発に遊び、さらに高度な技術を求め、スリルを追うようになる。したが

二人、三人組になっても、男・女・混合いずれの組も四才児の要領でうまくコンビをとってゆり、特に男児組では、女児組よりそのゆりも大きい。

五人、八人とグループの人数が増加すると、重たくなるので、腰かけている中の活動的な子どもたちが次々と立って端にいき、あるいはその場で腰かけたままゆり、他の子どもたちは、だまってのっているにすぎない。

第 10 表　ひとり遊びの種類と平均時間

| 遊びの種類＼年令・性 | 4才 男 | 4才 女 | 5才 男 | 5才 女 | 6才 男 | 6才 女 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 一方の端で鎖につかまり、主として脚でゆる | 2′54″ | 2′54″ | 2′22″ | 2′24″ | 1′50″ | 2′23″ |
| 中央に乗り、からだ全体で左右にゆる | | | 25″ | 18″ | 22″ | 20″ |
| 手でゆる | 1″ | | 3″ | 6″ | 3″ | |
| ゆりながら渡る | | | | | 30″ | |
| その他 | 5″ | 4″ | 10″ | 12″ | 15″ | 7″ |

第 11 表　ふたり遊びの種類と平均時間

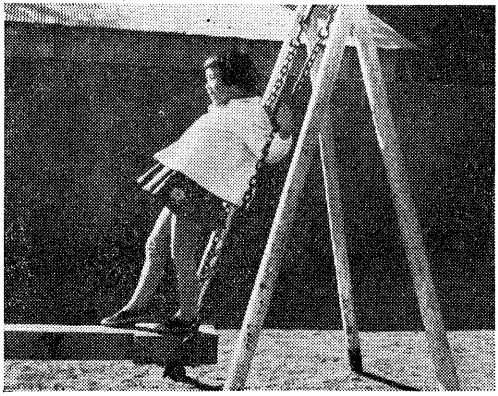
| 遊びの種類＼年令・性 | 4才 男 | 4才 女 | 4才 混 | 5才 男 | 5才 女 | 5才 混 | 6才 男 | 6才 女 | 6才 混 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 両端に立ち、向かい合ってゆる | 2′52″ | 2′50″ | 2′50″ | 2′52″ | 2′52″ | 2′45″ | 1′40″ | 2′53″ | 2′03″ |
| 1人が端 他の1人が中央でゆる | | | | | | | 8″ | | |
| 2人が中央にのってゆる | | | | | | | 42″ | | |
| その他 | 8 | 10″ | 10″ | 8″ | 8″ | 15″ | 30″ | 7″ | 57″ |

第 12 表　3人遊びの種類と平均時間

| 遊びの種類＼年令・性 | 4才 男 | 4才 女 | 5才 男 | 5才 女 | 6才 男 | 6才 女 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2人が両端、ひとりが中央で3人ゆり | 2′43″ | 2′46″ | 2′19″ | 2′49″ | 1′31″ | 2′28″ |
| 2人が中央、ひとりが端で3人ゆり | | | | | 12″ | |
| 両端に2対1に分かれ、3人の立ゆり | | | 26″ | | 51″ | 11″ |
| その他 | 17″ | 14″ | 15″ | 11″ | 26″ | 21″ |

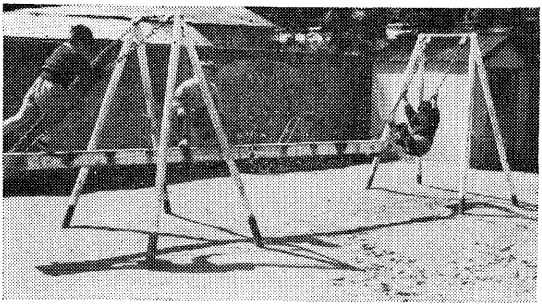
## 六　才　児

ひとりの場合、橋にいくや一方の端からあがってゆること四、五才児に同じ。だが、左右の脊は大きく前後に開き、からだ全体を大きく前後に動



第9図　ひとりゆり（5才女児）

第10図　3人ゆり（6才男児）



かしてゆるのでゆりはきわめて大きく、特に男児は、それだけの単純な遊びではものたらず、第一〇表にも示すごとくゆりながら端から端へ渡ったり、あるいは中央に中腰で立ち、からだを左右に動かしてゆったりする子どももおり、その遊びは活発で、スリルある遊びを好む。また、男児の中には、途中でゆるのをやめ、鎖や支柱にのぼった子どももいた。

二人、三人とグループの人数が増加しても、男・女・混合いずれの組もその要領は四、五才児に似ておるが、やはり男児組ではそのゆりも大きく、スリルを求めて遊ぶ傾向がある。それ故、混合組の中には、男児が大きくゆるので「止めて、止めて」と悲鳴をあげた女児もいた。

五人、八人とグループの人数が増加しても、その様式はいずれの組もほとんど五才児に似ておる。

## 予告

◎ **実際指導研究会**

期日　昭和三十四年六月五日（金）六（土）七（日）の三日間

会場　お茶の水女子大学講堂

主催　お茶の水女子大学付属幼稚園内　幼児教育研究会

◎ **幼児教育講習会**

期日　昭和三十四年七月二十一日—二十五日　午前九、〇〇—午後四、〇〇

会場　お茶の水女子大学講堂

科目　第一部（午前）　幼児教育の理論
　　第二部（午後）　幼児のリズム指導

主催　お茶の水女子大学付属幼稚園内　日本幼稚園協会